

「海外大学進学&留学セミナー」を開催しました

9月20日（水）本校70回生の櫻間郁佳さん（英国（北アイルランド）クイーンズ大学卒、英国（スコットランド）の名門エジンバラ大学院修了、ソニーR&D（研究開発）への就職が内定）をお招きし、海外大学への進学や留学についてご講演いただきました。中高あわせて62名が参加しました

高校1年次に『トビタテ！留学 JAPAN』プログラムでニュージーランドへ短期留学した経験を基に、「やりたいことに挑戦することの大切さ」を強調されました。「自分がやりたかった音響工学がたまたま海外の大学にあった。高2の2学期から英語の検定試験（TOEFL）の準備を始めた。高3では併願した名古屋大学（合格）の受験勉強とイギリスの大学に必要な IELTS（アイエルツ・英語の民間検定試験）の対策を両立させるのが少しきつかった。数学・物理・化学は東高の授業レベルが高いので、大学の英語での授業でも苦労しなかった。英語も東中・高のプレゼンテーションやディスカッションの授業、国際科の探究で執筆した英語レポートや英語論文がとても役に立ち、英語の検定試験でも合格ラインをクリアできる」などの話がありました。

松藤奨学金などいくつかの返還不要の奨学金で、日本の国公立大学へ進学するのとほぼ同額で生活できるとのことです。（※現在、文科省から海外大学進学者へ年額最高300万円の授業料と、月額約11万円の奨学金が給付される制度もあります）



「日本語論文講座」を開催しました

9月22日（金）大分大学教育学部の麻生雄治教授をお招きし、高校2年生全員に、論文の書き方についてご指導いただきました。「論文とは単に先行研究を調べてまとめるのではなく、すでにある文献よりも新しく、妥当性のある議論を論理的・実証的に展開するもの」とのお話がありました。

研究や論文の作成過程として、①テーマを決める、②問いを立てる、③調べる、④考える、⑤まとめる、とのご紹介がありました。論文の構成は、「テーマ」から始まり、①はじめに、②目的・問題の設定、③先行研究、④方法、⑤結果、⑥考察、⑦まとめ、⑧今後の課題、⑨参考文献、⑩付録、の順序で、それぞれの章で記述すべき内容をご教示いただきました。他人の業績を無断転用すると罪になるので、引用元を明示することの重要性も教えていただきました。

受講した生徒からは、「『～と思う。』という表現を使ってはいけないということを学んだ。意見や感想ではなく、観察・実験・アンケート・インタビューに基づいて、客観的な事実を書くことが大切だと理解できた。」「レポートは先行研究をまとめること、論文は自分の主張が必要だとわかった。」といったコメントがありました。これまで麻生先生には8年間で10回のご講演をいただきました。卒業生は進学先でもレポートや論文執筆で高い評価をいただいています。

